

全国高等学校ビジネスアイデア甲子園

独占インタビュー

ビジネスアイデア甲子園

「起業教育」への挑戦

大阪商業大学

「世に役立つ人物の養成」を建学の理念に掲げる大阪商業大学(大阪府東大阪市)は、起業教育の一環として高校生を対象とした「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」を開催している。昨年12月には第17回の表彰式が執り行われ、7591件の中から選ばれた受賞者に賞状などが贈られた。同甲子園で審査委員長を務める柴田孝准教授に、本甲子園の概況や同大の起業に対する意識などをうかがった。

——本甲子園の開催趣旨についてお聞かせください。

文部科学省が新学習指導要領で提唱している「三つの



ビジネスアイデア甲子園
審査委員長 柴田 孝准教授

力」などの概念と並行して、現代では新しい時代を切り拓いていく人材が求められています。そうした中、本学は起業家精神と起業家的資質・能力をもつ人材を育成する「起業教育」に取り組んでいます。また高大接続教育としても、「起業教育研究会」での本学教員と高等学校教員により起業教育の方法論についての研究などに取り組んでいます。

そうした活動を展開する中で、平成14年より「ビジネスアイデア甲子園」が企画・開催に至りました。高校生には、社会の課題を解決していく能力を養成するだけでなく、ビジネスに活かすという視点でアイデアを出してもらいたいと考えています。

——審査基準と受賞作品のポイントをお聞かせください。

審査基準はアイデアの新規性や着眼点に加えて、「実現して収益につなげられる

最終審査はプレゼンテーションでアイデアをPR



か」というビジネス的な視点も評価しており、それらを審査員へアピールできているかがポイントとなります。

今回グランプリを受賞した九州産業大学付属九州高等学校(福岡市)2年生のチーム「ハナ花」は、傘の柄につける布製の花の目印を作るギッ

トの商品化を提案しています。「傘の取り違えを防止する」という課題から始まり、楽しみながら物づくりができる点や装飾した傘で傘立てを整頓すれば、喜びにもつながるのではないかと、幼児の情操教育にも活かせるのではないかと提案などが評価のポイントとなりました。

——貴学の「起業」に対する意識をお聞かせください。

本学は、起業教育を特色の一つとして掲げており、必ずしも「起業」をゴールと考えているわけではありません。甲子園の参加者や本学の学生には、社会を良くしたい心を持つ人へと成長することを願っています。

また、本学のキャンパス内には「アントレラボ」と呼ばれる施設を設置しており、在学生と教員がビジネス研究などを通して交流を図っています。本学の学生から起業に挑戦する人が現れるとすれば、そうした取り組みの一つの成果なのでしょう。

——今後、甲子園に参加する高校生にメッセージをお願いします。

世の中を便利にする道具や仕組みがある一方で、少子高齢化や医療など、いまだ誰も解決できていない問題も、少なくありません。そうした課題を「仕方がない」で済ませるのではなく、解決しようとして挑戦する意欲のある高校生へ成長していただきたい。未来を担う高校生として、柔軟な考えで取り組むことを期待しています。

